

県建設センターは21日、仙台市青葉区の貸し会議室で「新技術講習会」を開催した。講師に県の職員や県測量設計業協会（宮測協）の会員企業を招き、UAVを使った3次元測量の取り組み事例などを紹介。3次元測量では、業務内容や現場に応じた機種の違いがポイントになることを伝えた。

講習会には、県と県内市町村から約50人の技術系職員が参加した。あいさつで同センターの加藤実企画・管理部長は、土木業界の人材不足問題を解決するために新技術が必要になると説き、「実際に取り入れている事例を紹介することで、日ごろ感じている疑問を解消したい」と語った。

講習会は、第1部の「i-Construction / UAV技術の近年の動向」と、第2部の「i-Construction / UAV技術の活用事例紹介」に分けて実施した。

県建設センター

3次元化の新技術講習 宮測協会員が講師で参加

このうち第1部では、県

土木部事業管理課技術企画班の春日和文主任主査が県におけるi-Constructionの取り組み状況を紹介したほか、宮測協から復建技術コンサルタンの市川健技術センター課長が3次元測量と最新技術の災害対応や維持管理への活用事例を発表した。

春日主任主査は、昨年度に土工量1万㎡以上の工事3件で実施したICTモデル工事に関し、本年度下半期は土工量5000㎡以上を対象に工事発注することを知らせた。

市川課長は、UAVを使った河川管理の研究事例を紹介。UAVの写真測量で得たデータをいろいろ加工することで、流下能力の感度分析や環境調査、低水護岸の状況把握などがよりスムーズかつ正確に行えると話した。

さらに市川課長は、3次元化適応の機械やデータが豊富になりつつあり、それぞれの得手・不得手があるため、目的や現場状況に応じた使い分け、あるいは組み合わせが必要になると指摘した。

講師として参加した宮測協会員企業の担当者は次の通り。

- ▽市川健（復建技術コンサルタン
- 技術センター課長）▽樽館晋（復建技術コンサルタン
- ト執行役員水工技術部長兼技術センター長）▽佐々木茂（アイワ技術サービス取締役技術第一部長）▽邊見健雄（西條設計コンサル
- タント業務部設計課長）▽丹野征哉（大江設計部設計第三課長）▽高橋秀紀（テクノ東北構造技術部橋梁設計グループ次長）



復建技術コンサルタンの市川健技術センター課長による講義

自治体職員がICTの基礎、活用策学ぶ
宮城県建設センター
新技術講習会開催

宮城県建設センターの「18年度新技術講習会」が21日、仙台市青葉区のTKPガーデンシティ仙台勾当台で開かれ、参加した宮城県や県内市町村の技術系職員約50人が、ICT（情報通信技術）などを活用した建設現場での生産性向上策について知識を深めた。写真。

開講に先立ち、同センター

1の加藤実企画・管理部長が「新技術は建設業界で今後、確実に深刻化する人材不足という課題への解決策となる。導入のメリットや取り入れるとどう変わるのかなど、新技術の基礎と現状、活用事例について学んでいってほしい」とあいさつした。

講義では、宮城県土木部の担当者が「新・みやぎ建設産業振興プラン」の概要や週休2日・女性活躍推進モデル工事、ICT土工を活用した建設現場の生産性向上策であるi-Constructionへの取り組み状況などを紹介。宮城県測量設計業協会の担当者も、UAV（無人航空機）による写真測量・レーザー測量を活用した3次元測量のメリットや今後の課題などを詳しく解説したほか、ICTモデル工事やUAVを用いた構造物調査の活用事例などを紹介した。



写真